

国見学園コミュニティ・スクールだより

学校・家庭・地域の連携と保幼小中一貫教育

令和6年8月 (事務局：国見町教育委員会教育総務課 ☎585-2119)



第2回国見学園コミュニティ・スクール委員会を7月5日(金)、国見小学校を会場に開催しました。

5時間目の授業を参観した後、4つの班に分かれ、以下のテーマで熟議を行いました。

また、利府町文化交流センター「リフノス」センター長の野澤令照様から指導・助言をいただきました。

テーマ：県北中にできた余裕教室を「中学生と地域の人とのふれあいルーム」として機能させるために、自分ができそうなことは何か。

各班からの熟議結果報告(抜粋)

👉 1班

○ お茶とお菓子を持って行ったり、自分の子どもを連れて行ったりしながら中学生の話し相手になったり、自分が作った野菜をふるまってみたりするなどできそう

○ 好きな本やおすすめの本を持って行って中学生と交流ができそう

○ 自分が趣味としていること、例えば囲碁や将棋など、楽しく・続いて・ためになる活動「ゆる部」のようなことができたらいい。

○ ドローンの技術を持っている人もいるので、操作の仕方を教えてもらうなどキャリア教育に繋がるような活動もできそう



👉 2班

○ 浴衣の着付けや踊りのレクチャー、パソコン教室など、様々なスキルを持った方が町内にいるので、これらをまとめてスケジュールリングできれば、地域の人と中学生と一緒に活動できるのではないかと。

○ スマホ活用のスキルなどは中学生の方が高いので、生徒を講師としてスマホ教室を開くなどできそうである。

○ 受験が終わって使わなくなった教材などを、学校に寄付していただいて安く売るとか譲るなど、フリーマーケット的な場所とする。

○ 余裕教室の活用に関与することはできないが、資料作りは得意であるという人もいると思う。そういった関わりを持ってもらうことで、みんなで事業を作り上げるという意識も高まるのではないかと。



☞ 3班

- 今回のお題が「自分ができそうなこと」だったので、縛りがいっぱいあってあまりアイデアが出てこなかった。

お題そのものが今回は厳しかったと今さらながら思っている。

これが「自分が」ではなく「自分も含めて地域がとか大人が」であれば、いろいろな話が出たであろうと思う。



☞ 4班

- 国見町で様々なサークル活動をしている方に自由に使ってもらい、興味のある中学生も受け入れることで、自然な形でふれあいが生まれてくるのではないかと。

- 余裕教室に待機して学習のお手伝いをしたり、受験指導を行う場としてもよいのではないかと。先生方の働き方改革にも繋がるのではないかと。

- 運営システムの確立が大切である。中学生の考えを聞いてみることも重要な点である。



野澤令照様からの指導・助言（抜粋）

- テーマが難しくイメージができていないというような話もあったが、これまで熟議を重ねてきて、空き教室を中学生と地域の人とのふれあいルームにしたいという結論に達したこと自体、非常に大きなことではないかと思う。

- ふれあいルームの存在を広く知ってもらうために、例えばパソコン・スマホ教室を実施するなどのイベント的な取組で誘いをかけることで、まずはふれあいルームに来るきっかけを多くの方たちに伝えるということが、はじめの段階では重要なことだと思う。



- 「中学生と地域の人との交流を目指す」と大上段に構えてしまうと、ハードルが高くなってしまいます。子どもたちは大人がニコニコして生き生きと活動している姿を見ると、自然と興味が湧いてくると思う。大人たちが楽しむ方向で進めることがポイントになると思う。

例えば漬物を持って行ってお茶を飲みながらワイワイ楽しむというのもあるだろうし、時間がある時に行って本を読みながら過ごしてみたり、パソコンを使って仕事をするのもいいのかもしれない。大人のそんな様子を目にすることが子どもたちの刺激になると思う。

- 運営をすべて学校に任せただけでは、本来の目的と全く趣旨が違ってくる。運営は使用する人たちで組織をしっかりと作って、特定の人に負担が過重にならないように、みんなで回す仕組みを考えていくことが大切である。

- 中学校の日常的な教育活動の邪魔にならないように、カリキュラムの中で上手く活かしてもらおうような場面を作ってもらえるのかどうか。

例えばスマホ教室が話題になっていたが、大人が教えるより中学生が教えた方がはるかに分かりやすいと思う。中学生が地域に恩返しをする活動ができるのであれば、自分たちが誰かの役に立つ体験を通して、自己肯定感を高める素晴らしい活動になる。中学校としっかり話し合ったら実現できたら素晴らしいと思う。